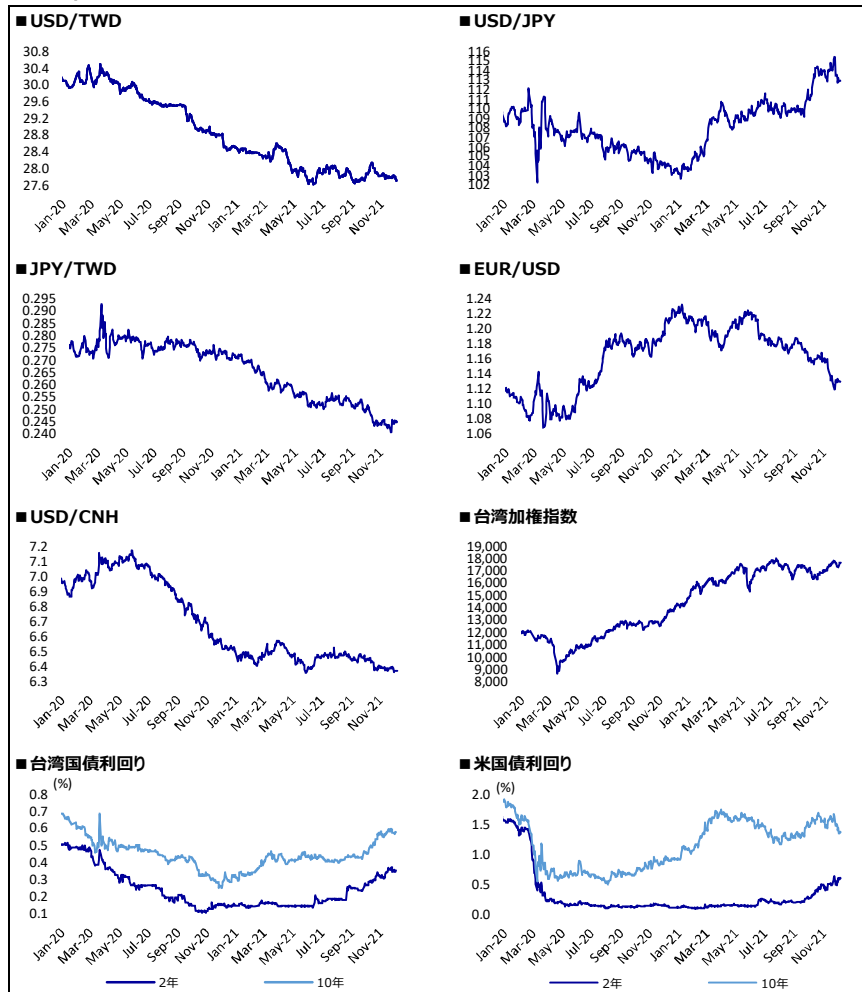


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初11/29は27.830でオープン後、前週のコロナ変異株の発見からリスクオフの流れから台湾株が急落すると、ドル台湾ドルは一時27.842まで上昇したものの、台湾株がすぐに前日終値付近に戻ると台湾ドル売り圧力は弱まり、月末の台湾ドル買いから27.78付近まで下落。11/30も月末の台湾ドル買いから27.74付近まで下落したが、米大手製薬会社のCEOからコロナ変異株について警告したこともあり、リスクオフの流れとなり、27.80付近まで戻された。月が替わり、12/1は台湾株がじり高となる展開にドル台湾ドルも一時27.695まで下落したが、台湾ドル買いは続かず、27.76付近まで戻した。12/2は月初で輸出企業のドル売りも少なく、27.40付近のレンジで推移。12/3は台湾株が横ばいで推移するも外資の流入から台湾ドル買いが優勢となり、じりりと下落。最終的には先週比0.4%ドル安台湾ドル高の27.723で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は75.3億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初11/29は113.30でオープン後、先週からのリスクオフの流れにドル円は一時113円割れに。リスク回避の動きが一服すると欧米株、米金利も上昇したことからドル円は一時113.96まで上昇。11/30は米大手製薬会社のCEOから、オミクロン株に対して既存のワクチンの効果が限定的との見解が示されたことでリスクオフの流れに。消費者信頼感指数も市場予想を下回り、米金利も低下し、ドル円は一時112.54まで下落。しかし、パウエルFRB議長の議会証言でタカ派な発言があり、米金利が上昇するとドル円も113円台半ばまで戻した。12/1はドル円がじりじりと下げると米11月ISM製造業景気指数が予想を下回ったことや米国でオミクロン株の感染が確認されると、112円台後半に。12/2は米金利の上下につられて113円を挟んでレンジで推移。12/3は米雇用統計を前に113円台半ばまで上昇したが、非農業部門雇用者数が予想を大きく下回ると113円を割り込んだ。ただし、失業率、労働参加率は改善したことから、テーパリング加速への見方は変わらず、113円台半ばで上昇。しかし、その後、オミクロン株への警戒感が高まるとリスクオフの流れにドル円は一時112円台半ばまで下落。最終的に先週比0.6%ドル安円高の112.86で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.650-27.800
「オミクロン株」は世界的に感染が確認されており、警戒感拭えない中、米長期金利が低下しており、上値は重い展開が続くと見込む。

■ USD/JPY 予想レンジ：112.40-113.80
コロナへの警戒感が続く一方、来週のFOMCでのテーパリング加速への見方もあり、113円を挟んで売り買いが交錯すると見込む。また、週末には米CPIの発表を控えており、インフレが加速しているかにも気をつけたい。

今週の予定

12/6 (MON)	
12/7 (TUE)	台湾11月CPI、台湾11月貿易収支、米10月貿易収支
12/8 (WED)	
12/9 (THU)	
12/10 (FRI)	米11月CPI、米シガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。